

第五十二回
帝國議會
衆議院

登録稅法中改正法律案外三件委員會會議錄(速)第十五回

會議

昭和二年三月五日(土曜日)午後一時二十四分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 武藤 金吉君

理事 奧村 千藏君

理事 高橋熊次郎君

理事 清水 長郷君

飯塚春太郎君

森田 茂君

斯波 貞吉君

永田善三郎君

松本 眞平君

木暮武太夫君

丹下茂十郎君

増田 義一君

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 片岡 直温君

農林大臣 町田 忠治君

商工大臣 藤澤幾之輔君

出席政府委員左ノ如シ

外務參與官 永井柳太郎君

大藏省主稅局長 黒田 英雄君

農林政務次官 小山 松壽君

商工參與官 野村 嘉六君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

禱 苗代君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

登録稅法中改正法律案(政府提出)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)

關稅定率法中改正法律案(政府提出)

商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出)

明治四十年法律第二十一號中改正法律案(樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件)(政府提出)

○武藤委員長 會議ヲ開キマス、前回ニ於テ高橋熊次郎君ヨリ書面ヲ以テ政府ニ質疑ヲシマシタ答辯要領ガ參ッテ居リマスガ、是ハ此儘速記録ニ掲載スルコトニ、問ノ方モサウナッテ居リマス

カラ、左様取計ヒマス——昨日小委員長ヨリ小委員會ノ成績ノ決ッテコトヲ御報告アリマシタガ、丁度昨日ハ國務大臣ガ御差支デアッタ爲ニ其成案ヲ報告致シマセヌ、茲ニ改メテ成案ヲ報告致シマス

「登録稅法中ノ第十九條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第八號、第九號、第十一號、第十二號及第十四號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十九條第八號ヲ左ノ如ク改メ第九號中「前項ニ規定スル」ヲ第十二號中「第八號ニ規定スル」ヲ削ル

八、自作農ノ創設維持ノ爲ニスル北海道府縣市町村産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權取得ノ登記

是ダケガ小委員會ノ成案デアリマス、此段御報告ニ及ビマス、其他登録稅外五案ニ付テ數回ニ涉ッテ審議ヲ重ネマシタガ、法律案ニ付テ修正ノ所ハゴザイ

付託議案

登録稅法中改正法律案(政府提出)
印紙稅法中改正法律案(政府提出)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)
關稅定率法中改正法律案(政府提出)
商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出)
營業收益稅法中改正法律案(湯淺凡平君提出)
清涼飲料稅法中改正法律案(湯淺凡平君提出)
不在地主稅法(清野毛利君外三名提出)
登録稅法中改正法律案(猪野毛利君外三名提出)
關稅定率法中改正法律案(小池仁郎君外十八名提出)
關稅定率法中改正法律案(東武君外十二名提出)
果物雜詰原料砂糖戻稅法案(中村嘉壽君提出)
明治四十年法律第二十一號中改正法律案(樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件)(政府提出)

マセヌ、唯砂糖消費稅法ノ施行ニ關シテ、審議ノ結果之ニ付テ政府當局ニ問フ所ガアルサウデゴザイマス、禱君

○禱苗代君 此際此案ニ對シテ砂糖消費稅法中改正法律案ニ對スル意見ヲ述ベマスル前ニ、政府ニ唯一點質問ヲシテ見タイト思ヒマス、沖繩縣竝ニ鹿兒島縣ノ大島ノ農村ハ他府縣ノ農村トハ違ヒマシテ、即チ他府縣ノ農村ノ振興ヲ圖レバ、大島沖繩ハ却テソレノ爲ニ

不利益ヲ受ケルト申シマスルノハ、内地ノ農村デ作ッテ居リマス主要產物、即チ米デアッテモ、麥デアッテモ、豆デアッテモ、是等ノ產物ハ沖繩大島ニハ全然

出來ナイノデアリマセヌガ、僅シカ出來マセヌノデ、消費者ノ地位ニ立ッテ居ルノデアリマス、沖繩ノ主要產物ハ

内地ノ農村ノ主要產物トハ違ヒマス、内地一般ニ於テ農村振興ヲ圖レバ大島

沖繩ハ衰微スル、斯様ナ現象ヲ呈スルノデアリマスガ故ニ、農村振興ヲ圖ル上ニ於キマシテモ大ニ政府當局ニ於テ

モ考ヘテ貫ハナケレバナラヌト思フ、御承知ノ如ク大島沖繩ニ於ケル主要産物ト云フノハ即チ黒糖、沖繩ニ於テハ精製糖モ幾ラカ出来、分蜜糖モ幾ラカ出来、主トシテ黒糖、是ガ主要産物デアリマスガ故ニ、此土地ニ於テ農村振興ヲサセヤウトスルニハ、ドウシテモ黒糖ニ對スル相當ノ保護助長ヲシテ行クニ非ズンバ振興セナイノデアリマス、故ニ此稅制整理ニ際シテモ、吾々ハ極力此廢稅ヲ主張シタノデアリマスガ、豫算ハ通過シテ今日貴族院ニ廻ッテ居ル際ニ、此修正ヲ押通シテ行クト云フコトニナリマスルト、餘程茲ニ面倒モ生ズルト云フコトヲ聞イテ居リマスカラ、他ニ特別ナル事ヲ政府トシテハ考ヘテ貫ハナケレバナラヌト思フ、之ニ對シテ政府ニ相當ノ御考ガアリマシタラ、此際ニ於テ一ツ其御意見ヲ御發表ニナリ、御聲明ヲシテ戴キタイト思ッテ居リマス

ルト云フコトニハ不十分デアル、一方ニ於テハ種々ノ希望ノ申出ガゴザイマシテ、之ニ對シテモ種々考慮致シテ居ル所デゴザイマス、然ル所今回第二次稅制整理ニ當リマシテ、大島及沖繩ニ於ケル糖業ノ状態ヲ委員諸君ヨリ具サニ承ル所ニ依リマスレバ、如何ニモ此儘ニ置キマシテハ、大島及沖繩ノ糖業者ハ十分ニ前途ニ望ヲ囑シテ働クト云フコトガ出来兼ネルヤウニ思フノデアリマス、是ニ於テ政府ト致シマシテハ、明年ヨリ之ニ對シテ相當ノ處置ヲ致サウト考ヘテ居リマス、其趣旨ヲ茲ニ明ニ申上ゲテ置キマス、政府ハ沖繩及大島ニ於ケル糖業ノ現状ニ鑑ミ、是ガ保護助長ノ爲ニ昭和三年度以降、同地方ニ於ケル樽入黒糖ノ消費稅總額ヲ下ラザル經費ヲ豫算ニ計上スベシ、是ダケノコトヲ聲明致シマス、即チ之ニ依テ大島及沖繩縣ノ糖業ハ是ダケ十分トハ參ラヌカモ知レマセヌ、又他ニ相當ノ考慮ヲセネバナラヌ點モアラウト存ジマシガ、差向キ之ニ依テ免稅ト同一ノ結果ヲ來ス、併シ免稅ニシテ居リマセヌ爲ニ、相當他ノ方面ニ對スル取締モ付キマス、却テ此獎勵保護ノ結果ハ大島及沖繩ノ爲ニハ利益ダラウト思ヒマス、是ダケノ御答ヲ致シマス

改正法律案、明治四十年法律第二十一號中改正法律案(樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件)、此六案ニ付テ質問モ大抵終ッタコトデアリマスカラ、討議ニ移リタイト思ヒマスガ、マダ質問ガ殘ッテ居リマスカ
○高橋委員 マダ質問ハ殘ッテ居ルノデアリマスケレドモ、會ノ模様ヲ見マシテモ、又小委員會モ結了シタル今日デアリマスカラ、私ハ質問ヲ打切りタイト思フノデアリマスケレドモ、自分ノ提出致シマシタル質問事項ニ對スル解答ヲ不幸ニシテマダ手許ニ戴イテ居リマセヌ、隨テソレヲ熟讀スル暇モナカッタノデアリマス、ソレヲ熟讀シタ上デ以テ、尙ホ自分ノ疑問ガ解ケヌヤウナ箇條ガアリマシタナラバ、更ニ本會議ニ於テ質問ヲ致シタイト思ヒマス、ソレデ本日ハ自分ノ質問ハ大體ニ於テ打切りタイト思ヒマス
○武藤委員長 一寸高橋君ニ御斷リヲ致シテ置キマスガ、政府ヨリ一昨日委員長ノ手許ニ高橋君ノ質疑ニ關スル書面ノ答辯ヲ得テ居リマス、本日茲ニ誇リマシテ速記録ニ戴セルコトニナッテ居リマス、委員長ノ手許ニ一部シカアリマセヌカラ、速記ノ方ガ濟ミマシタナラバ御手許ニ今日遣ハスコトニ致シマス——丹下君ハ之ニ對スル質問デゴザイマスカ、成ベク簡單ニ願ヒマス
○丹下委員 小委員會ノ結果ニ付キマシテハ異議アリマセヌガ、過日二十五日ノ委員會ニ於キマスル商工大臣ノ御

答辯ニ付キマシテ一二御尋致シテ置キタイト思ヒマス、ソレハ私ガ委員會ノ最初ニ御尋致シマシタ輸出陶器ノ原料デアル金液ノ問題デアリマス、此金液ノ問題ニ付テハ、委員會ニ於テ幾多ノ質問應答ガ繰返サレマシテ、最早蛇足ヲ加ヘルマデモナイガ、殊ニ二十五日ニハ長田君ナリ永田君、或ハ奥村君ナリヨリ色々御尋ガアッタヤウデアリマス、其中デ商工大臣ガ長田君ノ質問ニ對シテ、當業者モ是ナラバ宜シイト云フコトヲ皆申シテ居ルト云フコトヲ仰シヤッタノデアリマス
○武藤委員長 一寸丹下君ニ申シマスガ、各稅法ニ關スル委員會ハ政府案ノ六案ダケ決シマシテ、後ニマダ議員提出ノ重要法案ガ幾多殘ッテ居リマスカラ、一ツ次回ニ於テ御發言ヲ願ヒタイト思ヒマス
○丹下委員 私ハ商工大臣ガ聲明サレタコトニ付テ伺ヒタイト思ヒマス
○武藤委員長 ソレナラバ宜シウゴザイマス
○丹下委員 實ハ當業者ガ皆良好デアルト言ッタト云フガ、是ハ如何ナル所デ如何ナル當業者ガ申シタカ知リマセヌガ、恐ラク商工省ノ技術官方ガ仰シヤッタコトデアラウト思フ、大臣ノ御聲明ヲ見マスト云フト「工業政策ノ根本方針ノ上カラ洵ニ遺憾ニ存ジマス」ノデアリマスカラ、政府ニ於キマシテハドウカ此新ナル製品ヲ汎ク使用致サセマシ

午後一時五十二分散會

テ、サウシテ尙ホ彼ニ及バナイ所ノモノガアリ、需要者ノ爲ニ不利益デアルト云フヤウナコトニナリマシタナラバ、ソレハ又容易ナラヌ事デアリマスカラ、一箇年間之ヲ試シテ見マシテ、若シサウ云フ結果ガ現レマシタナラバ、次ノ議會ニ於キマシテハ此金液ノ關稅ノ撤廢ニ對スル要求ニ付テハ、決シテ躊躇スル者デハナイト云フコトヲ申上ゲマスカラ、ドウゾ御据置ヲ戴キタイト考ヘルノデアリマス」斯様ナコトヲ御答辯ニナツテ居リマスガ、最近ニ販賣サレタト云フ其品物ニ付テ私ノ調べタ所ニ依ルト、皆悉クイケンタイト云フコトヲ言ツテ來テ居ル、電報ノ返事モ澤山來テ居ル、殊ニ其電報ノ中ニハ頗ル怪シイモノモアルノデアリマス、先日同僚ノ人が政府委員ト打合セマシタ結果ニ依ルト、二十一日ニ「センクバイル」商會カラ三百三十「オンズ」バカリノ品物ガ市場ニ出タト云フコトデアリマシタガ、二十一日ニ私ハ關係スル方面ヘ電報デ問合セマシタ所ガ、此日ハ丁度受渡ノ日デアアルニ拘ラズ、此日ニ直グ返電ガ來マシテ、世間デハ、成績ガ頗ル良好デアルト言ツテ居ルト云フ電報ガ來タノデ、頗ル怪訝ニ堪ヘナカッタノデアリマス、然ルニ何ゾラン「センクバイル」商會ノ社員ニ、私ガ當業者ノ所ヘ取調ノ電報ヲヤルト云フコトヲ此所デ聽イテ、恐ラク商工省ノ役人ガサウ云フコトヲ漏シタノデハナイカト思フノデア

リマス、ソレヲ聞イテ直ニ其社員ガ、私ガ電報ヲ發シタ先ヘ飛ンデ行ッテ哀訴ノ事ヲ詳シク言ツテ來テ居ル、斯様ナ有様デアリマスノデ、二月二十一日ニ出シタト云フ三百三十「オンズ」ノ品物モ甚ダ怪ムベキ點ガ多クアルヤウニ思フノデアリマス、斯様ナ有様デアリマスカラ、恐ラク一箇年間据置キマシタ所デ、到底満足ナル使用ニ堪ヘ、而モ其數量ガ需要ノ額ダケモ恐ラクハ出來ナイコト、思フノデアリマス、此御説明ノ趣旨ハ品物ガ満足ナル使用ニ堪ヘナイ、又需要ノ數量ヲ生産シナイ場合ニ於テモ、矢張來年ハ關稅ノ撤廢ニ應ズル、斯ウ云フ意味ニ私ハ了解致シマスガ、ソレデ間違ガナイノデアリマセウカ、念ノ爲ニ一應承ツテ置キタイ

○藤澤國務大臣 丹下君ニ御答致シマスガ、先日申上ゲマシタ通りノ次第デアリマスカラ、只今御述ニナリマシタ通り、勿論是ハ商工省バカリ幾ラ良イモノデアルト申シマシタ所ガ、一人二人ノ實業家デナイノデアリマスカラ、皆ガ思ハシクナイト認メマシタナラバ、是ハ仰セノ通り満足スルコトガ出來ナイ、ソレカラ又需要ニ應ズルダケノ供給モ出來ナイ、斯ウ云フコトニナツタナラバサウ致シマス覺悟デアリマス

○武藤委員長 質問モアリマセヌヤウデアリマスカラ直ニ討論ニ移リタイト

思ヒマス、此贊否ニ付テハ各派カラ一名ヅ、贊否ノ意見ヲ御發言ヲ願ヒタイト思ヒマス

○森田委員 私ハ小委員會ニ於テ決シマシタ結果ニ付テ贊成ヲ致シマス、詰リ小委員會ノ決定通り此委員會ニ於テモ決定致シタイト考ヘマス

○高橋委員 委員長ノ報告ノ通り贊成ヲ致シタイト思ヒマス

○丹下委員 先程委員長ヨリ報告ニナリマシタ小委員會ニ於ケル修正案ニ贊成ヲ致シマス

○増田委員 委員長報告ノ通り、小委員會一致デ纏マツタ修正案ニ贊成、其他ノ全部政府提出案ニ贊成ヲ表明致シマス

○武藤委員長 政府ニ御尋ヲ致シマスガ、此修正案ニ付テ政府ノ御意見ヲ此場合御表明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○片岡國務大臣 政府ハ小委員會ニ於テ御修正ニナリ、今茲ニ諸君ノ御同意ニナリマシタコトニ付キマシテハ同意ヲ致シマス

○武藤委員長 登錄稅法中改正法律案外五件ノ政府提出案ニ付テハ、別段採決ヲ致シマセヌデ、皆悉ク同意ヲ表明サレテ居リマスカラ、滿場一致ト認メマシテ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○武藤委員長 滿場一致ヲ以テ登錄稅法中改正法律案外五案ヲ可決決定ヲ致シマス、今日ハ是デ散會致シマス

高橋委員ノ登錄稅法改正案ニ關スル質疑ニ對スル答辯要領

一 現行登錄稅法第二條第三號ノ登錄稅(大正十四年度分)ノ收入額如何
答 一、三三三、四八五圓

二 同 第四號同上
答 三四、五九一、三六七圓

三 改正登錄稅法第二條第二號ノ登錄稅ノ昭和二年度收入豫算額及計算ノ根據如何
答 收入豫算額 一、三三三、四八五圓

計算ノ根據 大正十四年度收入額ヲ基本トシ稅率ノ改正ニ因ル減收ト稅率低下ニ伴フ增收トヲ差引シ増減ナキモノトシテ計算ス

四 同 第三號同上
答 收入豫算額 三二、三七〇、二四六圓

計算ノ根據 大正十四年度收入額ヨリ贈與ノ稅率低下ニ伴フ假裝賣買ノ減少ニ因ル減收二五九、二八八圓ヲ控除シ其ノ殘額ノ三十五分ノ二ヲ稅率改正ニ因ル減稅額トシテ計算ス

五 現行登錄稅法第三條第三號ノ登錄稅(大正十四年度分)ノ收入額如何
答 一六七圓

六 同 第四號同上
答 一八六、〇三〇圓

七 改正登錄稅法第三條第二號ノ登錄稅ノ昭和二年度收入豫算額及計算ノ根據如何
答 豫算額 一一七圓

計算ノ根據 大正十四年度收入額ノ十分ノ三ヲ減稅額トシ之ヲ大正十四年度收入額ヨリ控除算出ス

八 同 第三號同上
答 豫算額 一七一、一四八圓

計算ノ根據 大正十四年度收入額二十五分ノ二ヲ減稅額トシ之ヲ大正十四年度收入額ヨリ控除算出ス

九 相續稅法第二十三條該當ノ遺產相續稅(大正十四年度分)ノ課稅價格別並種別毎ノ課稅價格及稅額如何
答 大正十四年度分ノ課稅價格別並種別毎ノ課稅價格及稅額ハ不明ニ付

參考トシテ大正十三年度分ヲ別表ノ通り添付ス
同昭和二年度收入豫算額及計算ノ根據如何

答 昭和二年度ニ於ケル相續稅ノ豫算ハ大正十四年度以前五箇年度平均課稅價格ヲ基礎トシテ算出シタル稅額ヨリ年賦延納見込額ヲ控除シ之ニ十五年度首現在年賦延納年割額(昭和二年度分)等ヲ加算シタルモノトス而シテ本稅ノ收入ハ年賦延納ニ屬スルモノ其ノ大部分ヲ占ムルハ例年ノ實況ナリ今前記既定ノ年賦延納年割額中遺產相續ニ係ルモノヲ示セハ一、〇四二千圓ナルモノ内二十三條ニ依ルモノト其ノ他ニ依ルモノトノ區分不明ナルヲ以テ從テ二十三條ノミノ豫算額幾何ナルヤハ不明ニ屬ス

十一 現行登錄稅法第二條第三號及第三條第三號ノ稅率ヲ改正スル理由如何
答 現行登錄稅法第二條第三號及第三條第三號ノ稅率ハ同法第二條第四號及第三條第四號ノ稅率トノ間差甚タシキ爲メ假裝賣買ニ依ル脫稅ヲ誘致シ易キト他面小額資産ノ贈與ニ付負擔過重ナル嫌アルヲ以テ之ヲ相當ナル間差ニ改メタルモノナリ

十二 前項稅率ノ改正ニ因リ事實ハ無償名義ノ贈與トナルモノヲ賣買ノ名義ニ依リ登記スルモノノ登錄稅ノ逋脫ヲ防止シ得ヘシト爲ス其ノ程度並之ニ因テ增加スヘキ登錄稅法第二條第三號及第三條第三號ノ登錄稅額並減少スヘキ登錄稅法第二條第四號及第三條第四號、以上各號別ノ昭和二年度豫算ニ屬スル登錄稅額如何

答 一、前項稅率ノ改正ニ因リ脫稅ヲ防止シ得ヘキ程度ノ認定ハ甚タ困難ナル問題ナルモ左記ノ通り第二條第三號ノ增收額及第二條第四號ノ減收額ヲ見積レリ

二、右ノ增收稅額
第二條第三號 增收額 三三三、三七一圓 昭和二年度豫算額
第二條第四號 減收額 二五九、二八八圓 同

但シ船舶ニ付テハ稅額僅少ナルヲ以テ增收額ヲ計算セス

十三 無償名義ニ因ル不動産ノ所有權ノ取得ニ對スル登錄稅率ヲ千分ノ六十ヨリ千分ノ四十五ニ低減シ賣買ニ因ル不動産ノ所有權ノ取得ニ對スル登錄稅率ヲ千分ノ三十五ヨリ千分ノ三十三ニ低減シ即チ現行法ニ於テハ無償名義ト賣買ノ各登錄稅率較差千分ノ二十五ナルモノヲ千分ノ十二トナシ其ノ差ノ少トナルコトニ依ツテ所謂假裝賣買ノ方途ニ依ル登錄稅ノ逋脫ヲ防止

シ得ヘシト爲スハ蓋シ之ハ一片ノ机上論ニ過キスシテ實際ニ於テハ仍且千分ノ十二ノ差アルニ因テ依然トシテ假裝賣買ノ式ニ依ル登錄稅ノ逋脫ヲ防止スルニ由ナキモノト信セラル無償名義ニ因ル船舶ノ所有權ノ取得ト賣買ニ因ル船舶ノ所有權ノ取得ノ登錄稅ニ付テモ亦右ニ同シ右ニ對スル當局ノ見解如何

答 無償名義ニ因ル不動産所有權ノ取得ト賣買ニ因ル不動産所有權ノ取得トノ稅率ノ間差大ナレハ大ナル程假裝賣買ノ方途ニヨル脫稅ヲ誘致スヘキヲ以テ其ノ誘惑ノ原因タル稅率ノ間差ヲ減少シ無償名義ニ因ル場合ノ稅率ヲ相當ナルモノニ改正スレハ從ツテ逋脫ヲ減少スヘキモノト認ム

十四 登錄稅法第二條第三號及第三條第三號ノ不動産又ハ船舶ノ遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得ニ對スル登錄稅率千分ノ六十又ハ千分ノ五十ヲ千分ノ四十五又ハ千分ノ三十五ニ低下セシムルニ於テハ

一 相續稅法第二十三條ニ依ル相續稅ノ賦課ニ付テ不動産及船舶ヲ課稅ノ範圍外ト爲シタルコト即チ不動産及船舶ノ贈與其ノ他ノ無償名義ニ因ル所有權ノ移轉ニ付テハ比較的高率ナル登錄稅ノ賦課アルニ因ルト爲ス相續稅ト登錄稅ノ間ニ於ケル連絡的課稅ノ權衡ヲ失スルコト爲ル、況ンヤ相續稅ニ付テハ大正十五年ノ改正ニ因リ其ノ遺產相續ニ對スル稅率ハ舊ニ比シ著シク高メラレ、最高額ニ對スルモノハ舊ノ二倍率ト爲リタルコトヨリ之ヲ見レハ、之ニ對應セシムルカ爲ニハ不動産及船舶ノ贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得ニ對スル登錄稅率亦之ヲ高上セシムルヲ要スルノ理ナリ、然ルニ反テ之ヲ低下セシムルハ即チ其ノ必要ニ逆行スルモノト認メラル

二 相續稅ノ稅率ハ家督相續及遺產相續共ニ去ル大正十五年ノ改正ニ依リ著シク之ヲ高上セシメタリ、之ニ反シテ不動産又ハ船舶ノ遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得ニ對スル登錄稅ノ稅率ヲ低下セシムルニ於テハ、累進率ニ依ル相續稅ノ比較的高キ部分ノ稅率ノ適用ヲ免カルル目的ニ於テ不動産又ハ船舶ヲ贈與其ノ他ノ無償名義ニ因リ相續人ニ移轉セシムルモノノ簇出スヘキハ必然ナリト信ス、例之

- 1 家督相續第一種ニ付テハ 課稅價格凡ソ十五萬圓
- 2 同 第二種ニ付テハ 同 十萬圓
- 3 同 第三種ニ付テハ 同 五萬圓
- 4 遺產相續第一種ニ付テハ 同 五萬圓

5 同 第二種ニ付テハ 同 四萬圓

6 同 第三種ニ付テハ 同 二萬圓

ヲ超ユルモノニ付テハ、即チ其ノ相續稅ハ千分ノ四十五以上ノ高キ稅率(其ノ最高率ハ實ニ千分ノ二百十二至ル)ニ依テ課稅セラルモノナルヲ以テ、其ノ相續稅ノ賦課ヲ甘シテ受クル場合ト之ヲ其ノ無償名義ニ因ル所有權ノ取得ノ登錄稅ノ負擔ニ止ムル場合トハ實ニ顯著ナル負擔ノ差違ヲ生ス、而カモ其ノ負擔ノ減免ハ相續財產ノ多額ナルニ從テ大ト爲ルノ理ナレハ即チ大資產家ニ付テ特ニ此ノ例ノ相續稅ノ逋脫ヲ容易且有利ナラシムルノモノトナル

三 或ハ夫レ不動産又ハ船舶ノ無償名義ニ因ル所有權ノ移轉ノ登錄稅率高キトキハ、其ノ假裝賣買ノ方式ヲ以テスル登錄稅ノ行ハルルニ止ラス、更ニ進ムテ相續財產タルヘキ不動産又ハ船舶ヲ亦假裝賣買ノ手段ニ因リ即チ相續稅ノ逋脫ヲモ敢テスルモノヲ生スヘキカ如シト雖

1 假裝賣買ニ因ル登錄稅ノ逋脫ニ付テハ本書第十三號ニ記述ノ如シ

2 相續財產タルヘキモノヲ被相續人ト相續人ノ間ニ於ケル假裝賣買ニ依リ其ノ所有權ヲ移轉セシメ以テ相續稅ノ逋脫ヲ謀ルト謂フカ如キコトハ、單ニ其ノ事柄ノ隱秘的ニシテ且ツ容易ニ行ヒ得ヘカラサルモノニ屬スルノミナラス、斯ノ如キモノニ付テハ、相續人カ當該不動産又ハ船舶ノ買得資金ヲ自ラ所持シタリト認メ得ルモノ以外ハ其ノ買得ニ要シタル資金ノ出所ヲ調査シ、若シ其ノ被相續人又ハ親族若ハ本家ノ戶主又ハ家族ヨリ給與セラレタルモノニ相當スル場合ニ於テハ即チ相續稅法第二十三條ニ依ル遺產相續稅ヲ賦課セラルヘキモノナルヲ以テ、斯ノ如キ行為ニ出ツルモノ殆ト皆無ナルヘシ

3 然ルニ贈與其ノ他ノ無償名義ニ因ル所有權ノ移轉ハ親子親族間ノ行爲トシテ公々然トシテ之ヲ行フコトヲ得ヘク而カモ相續稅法第二十三條ノ規定ノ適用ヲ受ケサルヲ以テ相續稅ヲ課セラルル憂ナク、即チ公然且合法的ノ相續稅ノ逋脫手段タリ得ヘシ、殊ニ其ノ相續稅率ハ之ヲ高メ、登錄稅率ハ反對ニ之ヲ低下セシムルニ於テハ倍々此ノ方途ニ依ル脫稅心ヲ刺擊シ蓋シ其ノ害計リ知ルヘカラサルヲ生セム

答

一 不動産及船舶ノ贈與ニ對シ相續稅ト登錄稅トノ連絡的課稅ヲナスコトニ付テハ現行登錄稅法モ改正案モ異ナル處ナシ而シテ相續稅ノ稅率ヲ高ムルノ故ヲ以テ必ス登錄稅率ヲ引上ケサルヘカラサルノ理由ナク要ハ相

續稅ト登錄稅トノ連絡的課稅ヲ適當ナラシムヘキ登錄稅率ヲ幾何ニ定ムヘキヤノ點ヲ決スレハ可ナリ

二 現行法千分ノ六十ノ稅率ハ家督相續第一種ノ課稅價格約八十萬圓ノ平均稅率ニ匹敵シ小額不動產ノ贈與ニ對シテハ負擔過重ナルト且賣買ノ稅率トノ間差大ナル爲メニ生スル假裝賣買ニ依ル脫稅ノ誘致ヲ防止スル爲メニ之ヲ千分ノ四十五ニ低下シタルモノナリ

尙相續稅ニ於テハ七年以内ノ年賦延納ノ制度アリ又相續ニ因リ不動產ヲ取得スル場合ニハ地方稅ノ課稅ナキニ贈與ニ因リ取得スルトキハ最高千分ノ三十二ノ不動產取得稅ノ課稅ヲ受クルヲ以テ不動產ヲ贈與シテ相續稅ノ連脫ヲ爲スモノナキモノト認ム

三 不動產及船舶ノ贈與ニ對シ相續稅ヲ課セスシテ登錄稅ヲ課スルハ實行上ノ必要ニ出テタルモノナリ即チ不動產及船舶ノ贈與ヲ相續稅法第二十三條中ニ包含セシメントスルトキハ登錄稅法ニ於テ不動產及船舶ニ關スル親族間ノ贈與ト非親族間ノ贈與トノ間ニ稅率ヲ區別セサルヘカラサルモ斯クテハ登記官吏ガ登記ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ事實上調査困難ナルノミナラス若シ強テ之ヲ調査セシメントスルモ却テ著シク登記事務ノ進捗ヲ妨ケ權利關係ヲ不定ナラシムルノ弊ヲ生スヘキコト明ナルヲ以テ不動產及船舶ノ贈與ニ關シテハ從來登錄稅法ニ於テ課稅シ來レルモノナリ此ノ趣旨ニ於テハ改正案ニ於テモ何等異ナルコトナシ而シテ登錄稅ノ稅率カ相續稅ノ最高稅率ニ比シ低率ナル場合ニ於テハ登錄稅率ノ如何ニ不拘之ヲ利用シテ相續稅ノ合法的脫稅ヲ企圖スルモノヲ生スルハ保シ難キモノ之ヲ完全ニ防カントセハ登錄稅ノ稅率ヲ相續稅ノ最高率ト同一ニ爲ササルヘカラス然ルニ登錄稅ノ稅率ヲ高メルトキハ小額ナル不動產ヲ贈與スル者ノ負擔過重ヲ來スノミナラス賣買ト贈與トノ較差著シクナリ益々假裝賣買ヲ助長スルノ嫌アリ政府ハ寧ロ此ノ弊害ヲ慮リ千分ノ四十五又ハ千分ノ三十五ニ低下シタルモノナリ

大正十三年度相續稅額表

(稅法第二十三條該當ノモノ)

種別	第一種			第二種			第三種			合計		
	人員	課稅價格	稅額	人員	課稅價格	稅額	人員	課稅價格	稅額	人員	課稅價格	稅額
千圓以下	二七、三九八	一八、六八九、六三四	一八六、九二三	一三〇	八四、七八九	一、〇一七	一、四三六	九六八、四〇四	一六、四九〇	二八、九四四	一九、七四二、八七七	二〇四、四一九
五千圓同	一三、七九三	二四、八五九、九六七	二七三、七七七	八五	一六四、〇五七	二、一五一	七六九	一、五六〇、八四八	二八、九二二	一三、六四六	二六、五八四、八七三	三〇三、七〇〇
一萬圓同	八四三	六、一〇七、七七八	七五、四〇一	一六	一一、二三三	一、七九〇	五九	四三二、六六六	八、九六一	九一七	六、六五一、六七七	八六、一五二
二萬圓同	三三四	四、五五二、二七三	六三、七八八	七	二二、四一八	一、八九九	二二	二八五、六六一	六、九三四	三五三	四、九九九、三三三	七三、六一一
三萬圓同	六七	一、七〇七、一〇五	二七、三〇八	二	四六、〇〇〇	八五六	六	一五四、五〇一	四、三四〇	七五	一、七五三、一〇五	三三、五〇四
四萬圓同	三五	一、三三二、三九九	二一、九六三	一	三〇、九〇〇	六三〇	五	一八七、四九五	五、八六〇	四一	一、四四九、六二四	二八、四五三
五萬圓同	二六	一、〇八、〇一一	二四、四八八	一	四三、四二五	九八八	一	四八、三五〇	一、六四七	二八	一、二九八、七七六	二七、二三
七萬圓同	二四	一、四〇〇、〇一六	三三、八五五	一	六六、〇〇〇	一、八九三	六	三五一、六五	三、九一三	三二	一、八三七、六三一	四七、六六一
十萬圓同	八	七六八、八八一	二二、三四〇	一	一三一、八四五	四、九九五	三	二七二、一四〇	一一、五八四	一一	一、〇四一、〇二一	三三、九三四
十五萬圓同	二	一、四一五、八五三	四六、六四二	一	四、九九五	二、三三二	二	一、五四七、六九七	一、五七七	二	一、五四七、六九七	五一、六七七
二十萬圓同	四	六七四、八五五	二四、五三四	一	二、三三二	一、三三二	四	六七四、八五五	二四、五三四	四	六七四、八五五	二四、五三四
三十萬圓同	二	八七三、六六八	四三、一八四	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二
四十萬圓同	二	五四五、〇〇〇	二八、八四八	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二
五十萬圓同	一	六〇〇、四六五	三三、四八三	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二
六十萬圓同	一	七九〇、三八二	四七、四三六	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二
七十萬圓同	一	三、〇九八、三三六	二五四、五四八	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二
九十萬圓同	一	六八、五五三、四三三	一、二〇六、四三九	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二
百萬圓同	一	二、五〇四、五四八	二、五〇四、五四八	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二
百萬圓ヲ超ユルモノ	一	一、二〇六、四三九	一、二〇六、四三九	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二	一	二、三三二	一、三三二
合計	四一、五三七	六八、五五三、四三三	一、二〇六、四三九	二三四	七九八、六五七	一六、二二九	二、二九七	四、四七六、七〇〇	一一〇、〇三三	四四、〇六八	七三、八二八、八〇〇	一、三三三、六七三

備考本表ハ當初決定額ニ據レリ

昭和二年三月六日印刷

昭和二年三月七日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社